



長野県林業総合センタ - 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

ハバチ被害がカラマツ林に与える影響

キ-ワ-ド：ハバチ、カラマツ、食葉性害虫、2次的被害

昨年に続き、今年もカラマツを食害するハバチ類などの大発生がみられます。ハバチなどに激しく食害されて葉がなくなったり、真っ赤に変色すると「カラマツが枯れてしまうのではないか」という問い合わせが多くなります。ここではこの質問にお答えします。

ハバチ類の食害ではカラマツは枯れません。

カラマツは、カラマツアカハバチ、カラマツマダラメイガ、カラマツツツミノガ等の加害を受けても枯死することはありません。ただしマツノクロホシハバチ、カラマツハラアカハバチの激しい被害が、2年目、3年目にも繰り返して続くと、カラマツが衰弱し翌年の芽吹きが悪くなったり、梢端部が枯損したり、あるいは寒害や二次性の昆虫被害を受けやすくなるといわれています。なお、マツノクロホシハバチによる激害地では「秋の芽吹き」を引き起こして、立木を著しく衰弱させ枯死に至ることがありますが、幼虫の密度が異常に高くなると餌不足が生じて、群れの崩壊（自壊現象）を起こすことも知られています。

現在の被害は昨年から始まったもので、今年は2年目となります。ハバチ類等によるカラマツ林の被害は、発生後3年を経過すると天敵微生物や捕食性天敵などの増加により終息することから、今回の被害も、来年まで続くと予測されます。

1991年に今回の被害地域を含む地域でハバチ類等の被害が発生した際も、3年目の1993年の発生で被害は終息しました。なお、今回の被害はカラマツアカハバチによる場合が多いようです。

対応策

カラマツ林が枯損する危険性はないと考えられますので、早急に防除対策を講ずる必要はありません。しかし、こうした昆虫類はこれからも大発生すること、そしてその発生間隔が短くなったりするとカラマツ林が次第に衰弱していく危険性もあります。このため、被害林の確認と加害種を調べておく必要があります。

担当者 育林部 岡田充弘